

# 浜松歯科衛生士専門学校



## 6月24日(水)朝刊 幼稚園 健康教育実習



歯の模型を手に、園児に歯磨きを指導する専門学校生＝いずれも浜松市中央区の蒲幼稚園で（一部画像処理）



歯の磨き残しを調べる薬を塗ってもらう園児

### 園児胸張って奥歯「ごしごし」

#### 衛生士専門学校生が指導

浜松歯科衛生士専門学校（浜松市中央区鴨江2）の2年生が22日、実習のため蒲幼稚園（同区神立町）を訪れた。園児に分かりやすいよう模型やイラストなどを使い、工夫を凝らして歯磨きの大切さや正しい方法を伝えた。

難しい言葉を使わずに歯磨き

のやり方を説明しようと、同校では5月からグループで案を出し合ってきた。この日は25人が参加し、6歳ごろに生える6歳臼歯を「6ちゃん」と紹介。他の歯よりも大きいのが、背が低いため磨きにくく虫歯になりやすい、とイラストも使って説明した。

磨き方の指導では、ブラシを自分に向けて「こんにはは」の持ち方で口に近づけ、片手は腰に当て胸を張って磨くように教えた。園児らは、「ごしごしごし」の掛け声に合わせて、奥歯を丁寧に磨いた。

鈴木希海さん(19)は「子どもたちが思っていた以上にパワフルで、質問のやりとりもスムーズに進み、うまくできたと思う。磨き方指導の力をもっと強化したい」と笑みを浮かべた。

同校では、保健指導力を向上させ、子どもたちには歯の大切さを知ってもらおうと、20年以上前から歯磨きを教える活動を続けている。近年は虫歯に加えて歯肉炎も低年齢化しているといい、今年も24日までに市内の六つの幼稚園で指導する。



イラストを使い6歳臼歯の特長を伝える専門学校生

(齋藤直純)